

資材のヒトスジシマカに対する忌避効果試験

—試験報告書—

試験番号:207401N

株式会社 食環境衛生研究所

〒379-2107

群馬県前橋市荒四町 561-21

Tel027-230-3411

Fax027-230-3412

1. 表題
資材のヒトスジシマカに対する忌避効果試験
2. 試験番号
207401N
3. 目的
資材のヒトスジシマカ雌成虫に対する忌避効果を確認するため。
4. 試験管理組織
試験依頼者の名称、所在地
名称 セレッティ株式会社
所在地 〒270-0017
千葉県松戸市幸谷 609 番地

実施機関の名称、所在地及びその長の氏名
名称 株式会社 食環境衛生研究所
所在地 群馬県前橋市荒口町 561-21
氏名 代表取締役 久保一弘

試験実施責任者の氏名
松本彰平

試験実施担当者の氏名
鈴木達也、宮本正志
5. 試験実施期間
2020年12月8日～2020年12月10日
6. 資材
エアーヴィーナス
7. 供試虫
昆虫種 ヒトスジシマカ(雌成虫)
匹数 200匹

8. 試験設計

試験設計を表 1 に示す。

表 1:試験設計

区	資材の稼働	供試虫数(匹)
対照区	なし	100
試験区	あり	100

9. 試験方法

- ① アクリルケージ(50 cm×50 cm×50 cm)を 2 つ用意し、アクリルパイプ(直径 15 cm、長さ 30 cm)で連結した。
- ② 一方のケージ(ケージ A)に誘引物としてマウス 1 匹及び 2 %の砂糖水を吸わせた脱脂綿を設置した。
- ③ ケージ A の誘引物とパイプ接合部との間に資材を寝かせて設置した(写真 1)。
- ④ 試験区は資材を稼働させ、他方のケージ(ケージ B)に供試虫 100 匹を放ち、試験を開始した。
- ⑤ 試験開始後 1、2、4、6 及び 8 時間に誘引物を設置したケージ A に侵入している供試虫数を計数した。
なお、本試験ではアクリルパイプやケージ B への戻りは無視することとした。
- ⑥ 資材を稼働させず同様の操作を行う対照区を設け、比較検証した。

写真 1



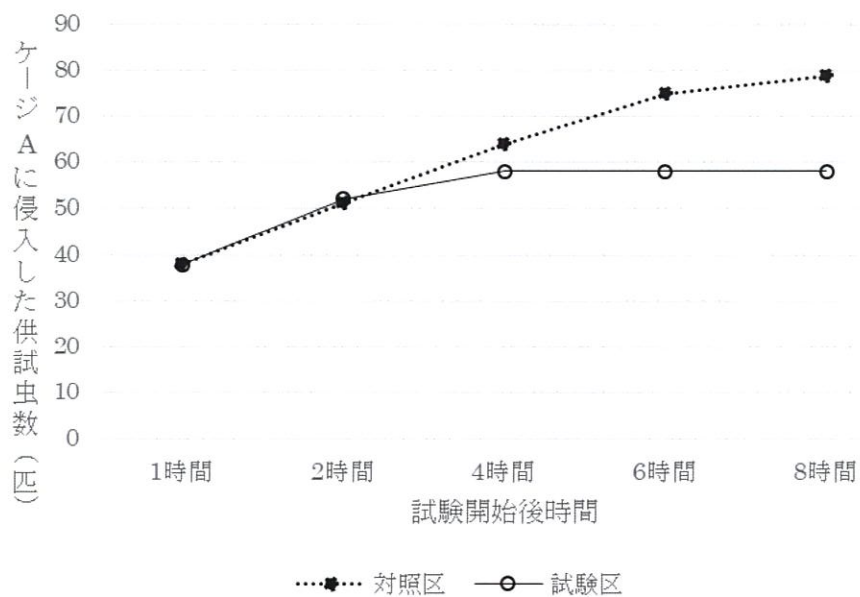
10. 結果

各時点においてケージ A に侵入した供試虫数を表 2 に、ケージ A に侵入した供試虫数の推移をグラフ 1 に示す。

本試験の結果、誘引物を設置したケージ A に侵入した供試虫数は、試験開始後 4、6 及び 8 時間で、資材を稼働した試験区が対照区より少ない傾向が認められた。

表 2:ケージ A に侵入した供試虫数

区	資材の稼働	ケージ A に侵入した供試虫数(匹)				
		1 時間	2 時間	4 時間	6 時間	8 時間
対照区	なし	38	51	64	75	79
試験区	あり	38	52	58	58	58



グラフ 1 : ケージ A に侵入した供試虫数の推移